

れまでの分類に一般的に一致するとともに、これまでの分類における問題点で不一致がみられ、この面よりの研究をつづけるに値するとの確信を得た。

ホクヨウウミウシ属 (*Duvaucelia*: 軟体動物後鰓類) 2 種に於ける孵化幼生の生態と形態の比較—直接発生えの 1 段階

堀越増興 (東大・海洋研)

北欧産 *D. plebeia* と *D. hombergi* は大きさ、形態、卵嚢に多少の差もあるが、著しい違いは孵化の時期とその時の幼生の形態と生態にある。前種では通常の後鰓類と同様の時期に孵化し通常の形態の被面子が水中に泳ぎ出す。一方後者では卵嚢内で更に発生が進むに拘らずなかなか孵化して来ない。この頃幼生は被面子ではあるが既に足が著しく発達した pediveliger の形態をなし、機械的刺戟によって孵化した幼生も水中に泳ぎだすことなく水底にそって泳ぎ或は匍匐している。シャーレーにこの種の餌料となる *Alcyonium* (八射珊瑚類) の小群体と比較のために海綿、石を入れ中央に卵嚢を置いた実験では24—48時間後に幼生は殆んど総て *Alcyonium* に付着し順次変態を完了していた。これはその触手に捕えられずに安全に食物たる動物に速かに到達し直後に変態することを意味する。後鰓類には直接発生を行う数種があるが、この種は通常のものとの中間型を示しかつ生態と密接な関連があることが興味深い。

奄美諸島におけるメクラグモ類の種分化

鈴木正将 (広島大・理・動物)

奄美諸島から10属11種のメクラグモ類が知られたが、その6属6種は東洋区系、4属5種は全北区系である。全種数の約半分が全北区系であることは、動物地理学上注目値する。なお全北区系の種はすべて、島嶼における種分化という点でも刮目すべきである。それは *Nipponopsalis abei* (Sato & Suzu.), *Leiobunum uenoi* Suzu., *Leiob. hikocola* Suzu., *Metaleiobunum japonicum* Suzu., *Nelima okinawaensis* Suzu. の5種であるが、いずれも九州以北の日本列島に分布する対応種と密接に関係している。しかしそれらは対応種に比べて、種々の外部形態(体や脚の大きさ、武装の強度、付属肢などの構造)あるいは内部形態(陰莖や受精嚢)に目立った差異が生じている。その差はつねに大きく、いずれも独立の種または亜種としての資格づけを認めさすほどである。これは奄美諸島の有効な地理的隔離の作用に基因するといえよう。